

神津島

- 島の南西部の**神津島空港**が位置する高台は、古い溶岩流(面房溶岩流)を土台として約3～2.2万年前に**火砕物**(※4)が堆積してできた平滑な斜面。
- 神津島空港はこの地形を人工的に改変(**盛土**、**切土**)して造成された。

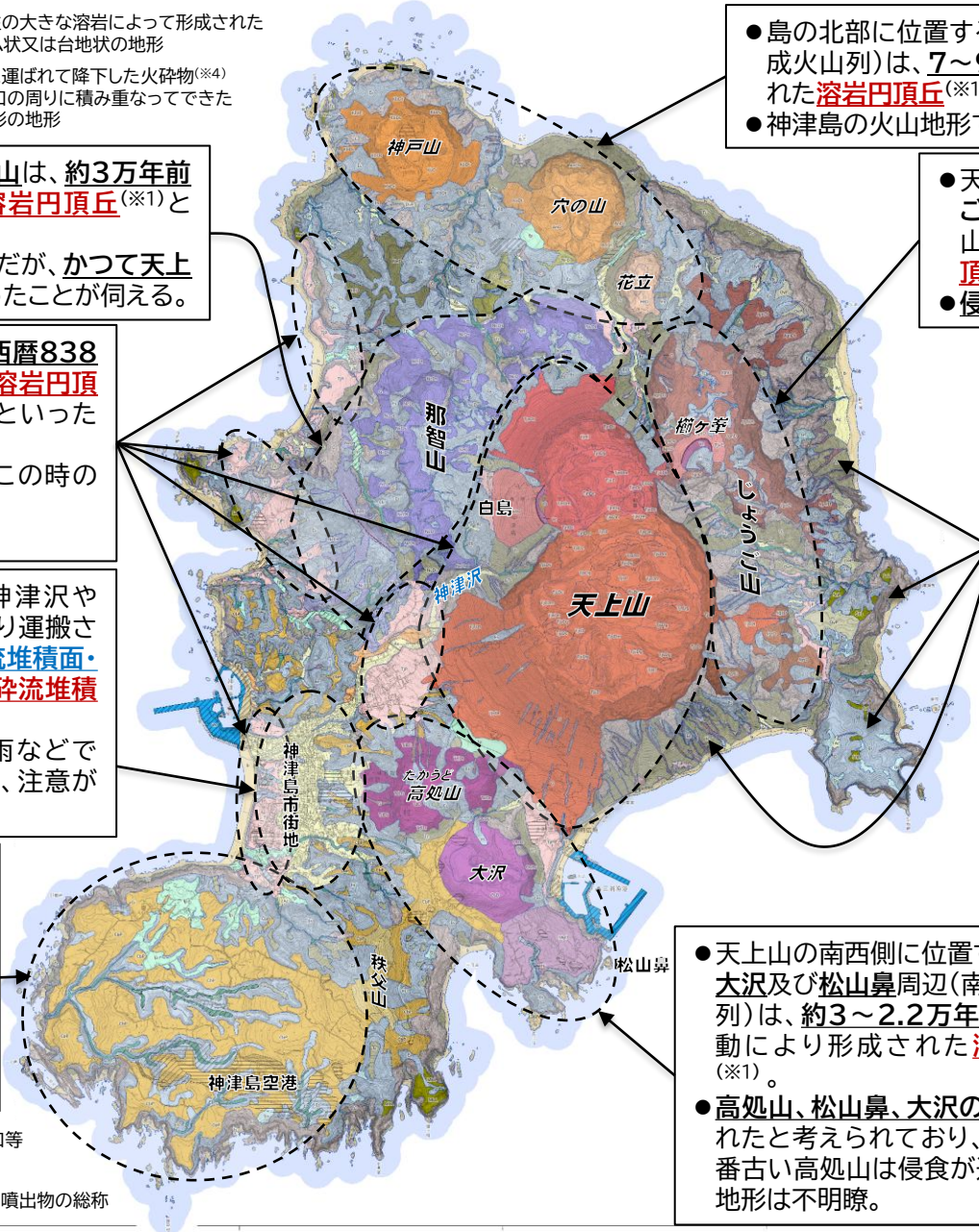
(※4)噴火により火口から噴出された溶岩流を除く噴出物の総称

(※2)風に運ばれて降下した火砕物(※4)
が火口の周りに積み重なってできた
円錐形の地形

- 島の至る所に分布する**侵食斜面**(※5)や**崩壊地・急崖**では、大雨や地震などで**斜面崩壊や落石が生じる可能性**が高く、注意が必要。
- 斜面下部に見られる**崖錐(がいすい)・崩落堆(ほうらくたい)・麓屑面(ろくせつめん)**(※6)は、過去の崩壊や落石による岩屑が堆積してできた地形であり、**今後とも岩屑が到達する可能性**があるため、注意が必要。

(※6)斜面崩壊や落石等によって運搬された岩屑が斜面下部に堆積してできた斜面

- 天上山の南西側に位置する高処山、大沢及び松山鼻周辺(南部単成火山列)は、約3～2.2万年前の火山活動により形成された溶岩円頂丘(※1)。
- 高処山、松山鼻、大沢の順に形成されたと考えられており、この中で一番古い高処山は侵食が進んでおり、地形は不明瞭。



- ① 投影はユニバーサル横断カルト図法
- ② 高さの基準は東京湾の平均海面
- ③ 標高は火山基本図(津波島)国図(令和4年12月発)
- ④ 調査による値は測量成果2024にに基づいて修正
- ⑤ 地形界線は対田畑等(2021)等を参考にDEMや空中写真による判読、現地調査等を行い補入
- ⑥ 南北67m横査・縦査

1:12,500
0 250 500 750 1,000
この尺度は地籍地図の縮尺率について従量測定の値による
令和 7 年 12 月 19 日発行
国土地理院